

事例番号:290187

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第五部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 34 週 0 日

6:00 下腹痛あり

7:15 搬送元分娩機関を受診

7:25 超音波断層法で胎児心拍数 60 拍/分、胎盤肥厚を認め常位胎盤早期剥離の診断

7:48 当該分娩機関へ母体搬送、入院  
胎児心拍数 50 拍/分台

#### 4) 分娩経過

妊娠 34 週 0 日

7:58 常位胎盤早期剥離、胎児機能不全の診断で帝王切開にて児娩出  
胎児付属物所見 血性羊水、胎盤後血腫あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:34 週 0 日

(2) 出生時体重:2122g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.728、PCO<sub>2</sub> 111.2mmHg、PO<sub>2</sub> 16mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 13.8mmol/L、BE -27.9mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 4 点

(5) 新生児蘇生：人工呼吸（バッグ・マスク）、気管挿管

(6) 診断等：

出生当日 早産児、低出生体重児、重症新生児仮死、低酸素性虚血性脳症

(7) 頭部画像所見：

生後 28 日 頭部 MRI で、大脳基底核・視床に信号異常を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

### 〈搬送元分娩機関〉

(1) 施設区分：診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 1 名

看護スタッフ：助産師 1 名

### 〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分：病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 3 名、麻酔科医 3 名

看護スタッフ：助産師 1 名、看護師 4 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、常位胎盤早期剥離による胎児低酸素・酸血症である  
と考える。

(2) 常位胎盤早期剥離の関連因子は認められない。

(3) 常位胎盤早期剥離の発症時期を特定することは困難であるが、妊娠 34 週 0  
日 6 時頃に生じたと考える。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

#### (1) 搬送元分娩機関

ア. 妊娠 34 週 0 日 7 時 25 分の超音波断層法所見（胎児心拍数 60 拍/分と胎

盤肥厚)から、常位胎盤早期剥離と診断したことは適確である。

- イ. 常位胎盤早期剥離の診断後、当該分娩機関へ連絡し母体搬送としたことは選択肢のひとつである。

## (2) 当該分娩機関

- ア. 当該分娩機関に到着後、直接手術室に搬送し、超音波断層法を実施し、常位胎盤早期剥離、胎児機能不全と診断したことは適確である。
- イ. 当該分娩機関入院から 10 分後に児を娩出したことは極めて迅速で適確である。
- ウ. 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- エ. 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 搬送元分娩機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

### 2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

#### (1) 搬送元分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

#### (2) 当該分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】児が新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例

検討を行うことが重要である。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においてもその予知は極めて困難あり、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する疾患である。常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。